

親子で学ぼう！～宇宙の学校～

練馬区立関町北小学校応援団「宇宙の学校」

柴田 直人(子ども・宇宙・未来の会(KU-MA))



1 練馬区立関町北小学校応援団

「宇宙の学校」について



◆ 概要

地域在住の小1から小6までの児童とその保護者が、親子と一緒に参加する宇宙教育活動です。参加者が集合し対面で活動する年に4回のスクーリングと、各家庭で親子で取り組む家庭学習からなります。2025年度は児童35名とその保護者が参加しました。

2011年度のプレイベントを皮切りに、2012年度から年に4回のスクーリングを中心とした活動を行っています。コロナ禍の2020・2021年度は休止、2022・2023年度は「宇宙の教室」として実施しました。

主催は練馬区立関町北小学校応援団、共催はKU-MA、JAXA宇宙教育センター、後援は練馬区立関町北小学校です。スクーリング時には青年リーダーに協力いただきながら、学校応援団(地域在住、会場の小学校在校生・卒業生保護者)10名ほどで運営しています。講師は地域在住の学校教員です。

※「学校応援団」…東京都練馬区の区立小学校に設置されている組織。保護者や地域住民の方々で構成され、「校庭開放事業」「図書館開放事業」「学校施設活用事業(自主企画事業)」「開かれた学校づくり推進事業(学校応援団まつり)」を運営。

◆ スクーリング時の活動内容の例

- ・親子で熱気球を作ってあげよう!
- ・親子で飛ぶ種子を作ろう!
- ・親子で望遠鏡を作ろう!
- ・親子でかさ袋ロケットを飛ばそう!
- ・親子で星の砂のひみつをさぐろう!
- ・レポート発表会



活動名には「親子で」が必ず入っています!



2 「宇宙の学校」のねらいと役割

◆ 「宇宙の学校」とは

KU-MAがJAXA宇宙教育センターと連携し、地域の団体と協働して行う事業です。親子で参加するスクーリングと、各家庭で親子で取り組む家庭学習で構成され、2024年度は全国34か所で実施され、年間参加者数(延べ人数)は7,436人でした。

「宇宙の学校」は、宇宙の視座から子どもたちに「いのちの大切さ」を教え、「子どもたちの心に火をつけ、好奇心、冒険心、匠の心を育む」という宇宙教育のねらいを実践できる、貴重な教育の場です。宇宙教育のねらいの実現と、「親子のつながりを育むこと」「子どもの学びを支える社会の力を地域で興し実践すること」を目指しています。(「宇宙の学校®」はKU-MAの登録商標です。)

◆ 「宇宙の学校」の役割

スクーリングでの親子の関わりは、家庭での親子の関わりを変容させ、子どもにとって一番身近な大人である保護者が日常生活の中で子どもたちの心に火をつけるきっかけになります。

また、スクーリングは、講師や運営スタッフ、参加者の保護者が協働して実施するものです。子どもを取り巻く周囲の身近な大人による、地域に根差した社会教育活動を推進しています。

宇宙教育が対象とする年齢や、そこで扱われる題材・教材は多種多様です。その中で「宇宙の学校」の取り組みは、「人間形成としての宇宙教育」とも言え、意義あるものと考えています。

3 「宇宙の学校」の特徴

◆ 教材

宇宙や自然、身の回りの事象、日常の現象を題材にした「宇宙の学校」家庭学習用テキストを用いています。宇宙との関連が説明されています。

◆ スクーリングの進め方

講師から一方的に教えるスタイルではなく活動内容についての考え方や手順のヒントを示すことを意識して進めています。参加者自身が試行錯誤したり、参加者同士で協力したりして解決する場面を意図的に設定しています。

◆ 関町北小学校応援団「宇宙の学校」スクーリングの特徴

・親子での参加

以前は低学年のみ親子参加していましたが、現在は全学年の児童が親子で参加しています。

・同じグループでの活動

学年縦割りの4グループで、同じメンバーで1年間活動します。年に4回の活動を通じ徐々に打ち解け合い、異学年交流や他の保護者との交流、保護者同士の協働が多く見られます。

・保護者の特徴

父親の参加が多く見られるのが特徴です。夫婦一緒に参加したり回ごとに夫婦交代で参加したりする家庭もあります。

・運営スタッフのサポート

参加者が主体的に活動できるよう、親子の関わりの促いや、工作時の安全喚起などの声掛けによる「見守り」を行っています。また、「宇宙の学校」の卒業生でもある青年リーダー(大学生)は、児童に年齢も近く、話しかけやすい頼れる存在です。



4 成果(毎度末実施の保護者へのアンケート調査回答から)

◆ 親子間の共有・影響

「子供は普段は家ではTVを見てゴロゴロしていることが多いので、このような機会があるおかげで刺激になります。実験したことを見たときに話題にし、家族の会話を増えました。」

「宇宙の学校がある週は、数日前からワクワクしているようだった。『なにしたらいい?』『どう書けばいい?』などたくさん質問してくれた。父娘で一つのことに夢中になれるのはいいなと思った。」

◆ 友達・異年齢集団による影響

「他の学年の子と力を合わせて何かを作ることが楽しかったようです。普段あまりないことなのでよい経験になりました。」

◆ 身近な自然現象への興味・関心の広がり

「子供が科学に関して、少し興味を持つきっかけになりました。身近な自然現象に対する疑問を投げかけられることも増え、親側も答えられるように勉強しております。」

「自然について興味をもつきっかけになる題材がテキストに多くあり、日常の中での質問や気づきの幅が増えました。」

◆ 子どもの変容

「宇宙の学校で学んだ事を普段の生活の中で気付きや発見などにつなげて考えることができ、成長したと思う。」

5 おわりに

練馬区立関町北小学校応援団「宇宙の学校」の強みは、運営スタッフや参加の保護者との間で「宇宙の学校」の趣旨をよく共有できていることにあります。今後も同じ思いを共有しながら活動を継続し、一緒に取り組む仲間を増やしていきたいと考えています。

【引用・参考資料等】(webページはいずれも2026年1月24日閲覧)

(1)宇宙の学校®<https://www.ku-ma.or.jp/spaceschool/spaceschoolindex.html>

(2)「宇宙の学校」家庭学習用テキスト<https://www.ku-ma.or.jp/kyozai/sstext/sstext.html>

(3)練馬区立関町北小学校応援団「宇宙の学校」アンケート集計結果(2014~19、24~25年度)